F－8　試論・家政学の体系・構造について（第２報）　―ＯＦボルノーの空間分析を基として―

郡山女子大家政　関　口　富　左

目的　家政学の各分野は多岐に亘る研究量に比して、独自性に乏しく、その研究視点も甚だ定まらない。演者はこのことの根本原因を探ぐるべく、家政学に哲学的拠点を求め、そこより演繹的思考にもとづき家政学の本質解明をすゝめるものである。

方法　ＯＦボルノーの「人間とその家」「実存哲学克服の問題」等氏の人間学的哲学における空間分析より、人間存在を確認し、それより空間の意味（特に守護性の解釈）空間の位置、空間種別と動態基本、空間分析の生活的展開（家政学的展開）家政学の対象、家政学の定義、家政学における人間個人の吟味（第１報にて解明分）等の体系的試論を経て、守護空間の内容を空間種別により構成し、立体構造への推論を試みた。

結果　内部空間の守護性を家政学の本質的意味として取り入れたことにより、家政学の体系構造の一部が明確となり、家政学が、他学と異る『人間守護の学』としての核心的独自性が解明されたとみる。さらにここより推論をすゝめ、漸次家政学の全貌的構造をたしかめる。